

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

母と子に楽しく歯の大切さPR



無料歯科検診で口腔内診査を行う中村(浩)准教授と母親からの質問に答える中村(美)准教授(手前)

「ママフェスまつもと2019」に参加 歯科検診・歯科矯正相談・歯磨き指導を実施

子育て中の母親が集い子どもと一緒に遊びや学びを体験できる親子参加型イベント「ママフェスまつもと2019」が6月29日(土)、松本市の信毎メディアガーデンなど市内4会場で開催され、本学もブース参加した。教員や大学院生、衛生学院第2学年生らが無料歯科検診やブラッシング指導、歯科矯正相談を行ったほか、キッズ白衣の記念撮影コーナーを設けたり、シールや風船をプレゼントして、約250組の親子連れを楽しませながら、歯の大切さとともに、本学をPRした。

ママフェスは、小さな子ども連れでも安心して楽しめるアクティビティやワークショップなどのコンテンツが多数揃う人気イベント。信毎メディアガーデンの3階に設けた本学ブースには午前10時の開始時刻前から大勢の親子連れが訪れ、衛生学院生らが整理券を配付して案内した。

口腔生化学講座の中村美どり准教授(共に日本小児歯科学会専門医・指導医)は、無料歯科検診で子どもたちの口腔内診査を行い、希望者には母子手帳に検診内容を記載して保護者からの質問に答えた。歯科検診を受けた参加者には株式会社モリタ提供のフッ素配合ジェルや、松本歯科大学公式キャラクターの解説入りシールをプレゼント



歯並びや噛み合わせの相談コーナーで親子に対応する荒井講師



白衣とキャップ姿で記念撮影する女の子

病院健康づくりセンターは、6月20日(木)と27日(木)に「健康づくりに必要なお話―健康づくりは運動だけじゃない―」をテーマに初めて講義の教室を開催し、本学病院内科医師の神谷仁先生にお話ししていただいた。運動を中心とした少人数の教室は以前から行ってきたが、健康は「運動・栄養・休養」の3つからつくられると考えており、「運動」と「食べる」と「寝る」と「寝る」と「食べる」のバランスが重要となる。運動する人は、運動と同様に「食べる」と「寝る」

衛生士になった気分が嬉しそうに笑うわが子を母親らがスマートフォンなどで記念撮影していた。衛生学院生と大学院第1学年の倉科勇太研修歯科医、酒井聡美診療助手、中野翔太郎研修歯科医、羽鳥遼研修歯科医らは、教員をサポートしながら笑顔で子どもたちと交流した。



講義をする神谷先生

病院健康づくりセンターで講義スタイルの教室を初開催 内科医師・神谷仁先生が必要な栄養素やタンパク質について解説

ど、効率的に栄養補給を行うことが出来る具体的な活用方法などを分かりやすく説明された。参加者からは「卵は体に良いからと毎朝食食べているが、調理方法などを気にしたことがなかった」ので今後の生活に役立てたい」と感想が聞かれた。

講義では、医師に直接尋ねることができるとあって積極的に質問の手が上がり、参加者にとって実りある時間となった。



岐松鶴戦に参加した弓道部員たち

6月29日(土)・30日(日)の両日、本学弓道部は塩尻市弓道場にて「岐松鶴戦」を行いました。岐松鶴戦とは1977(昭和52)年から42年間にわたり開催されている朝日大学(旧称・岐阜歯科大学)、松本歯科大学、鶴見大学の弓道部による三校練習試合です。本年度は本学と朝日大学の2校、総勢50人近くの学生が集まり開催されました。

の雨でしたが、試合が開始するころには晴れ間が広がり、天候に恵まれた試合となりました。弓道は一般的に個人競技と思われがちですが、団体戦が競技の中心です。3人1チームまたは5人1チームとし、1人4射で各チームの総的中数を競います。今回の試合では3人1チーム、計36射の総的中数を競い合う試合が行われました。団体戦は接戦の末、本学の第3学年男子を中心とするチームが優勝。個人戦では女子個人2位、男子個人賞を獲得できました。

弓道部が 伝統の「岐松鶴戦」大健闘 男子団体戦 優勝 女子個人戦 2位

弓道部は本学建学時に創部された同好会を起源とする歴史ある部活です。他大学との交流や試合への参加も活発に行っています。毎年6月、7月にかけて岐松鶴戦や愛知学院大学、朝日大学との練習試合である中部三校戦を開催し、夏の全日本歯科学生総合体育大会弓道部門、秋の東海歯薬学生弓道大会に向けて日々練習を積んでいます。弓道に興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。

オデッセイア ④

魔女キルケに別れを告げ、再び彼は歌声に惑わされて、緊縛を解こうと暴れ出したが、その間も部下たちは構わずに全力で漕いでいたので、この恐るべき難所を抜けることができた。

歌声を聞いても生きながらえたい人間が現れたら死ぬ運命となっていたセイレーンたちは、海に身を投げて最期を遂げた。ちなみに、この怪物が英語の「サイレン」の語源である。

次にはメッシナ海峡(イタリア本土とシチリア島の間の狭い海峡、ここは現代でも激しい渦と潮流の速さで知られる航海上の難所となっている)を通過してみようと、耳栓をせずに帆柱に厳重に縛り付けさせた。やが

という怪物がいた。前者は食事のために一日に三度、巨大な渦を作った大量の海水を飲み込み、次いで吐き出す女怪で、船がこれに出会えばひとたまりもない。キルケからあらかじめ教えられていたので、渦潮の轟音に注意してこちらの難は避けられた。

しかし、狭い海峡の岩壁の上から突如襲ってきたスキュラは、6本の長い首を伸ばして、6人の乗組員を口にくわえ、あつという間に姿を消してしまつた。

犠牲者を出しながらも、ようやく難所を抜けた一行は、トリナキエ島に辿り着いた。数多くの牛や羊が草を食んでいる平和な島であった。「この島には上陸するな」とキルケから警告されていたのだが、疲れ切つた部

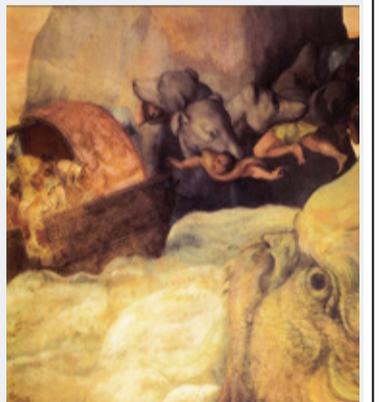


図2 Alessandro Allori: スキュラとカリュプデス

下たちを抑えきれなかった。

上陸した彼らは空腹にも耐えられなくなり、オデッセウスが熟睡した隙に禁を破って牛を捕らえ、焼肉大会を始めた。ところが、この島は太陽神ヘリオスの放牧場だったから、大変なことになる。神の怒りが爆発して大雷雨となり、慌てて逃げ込んだ船も暴風にメッシナ海峡にまで吹き戻されて、あのカリュプデスの大渦に飲み込まれる始末となつてしまつた。船はばら

ばらに砕け、オデッセウスはたった一人だけ木切れにすがつて大海原を漂流した。(つづく)



図1 John W. Waterhouse: オデッセウスとセイレーンたち

小児歯科学講座同門会 定期総会および勉強会を開催

小児歯科学講座・中村浩志准教授が講演

中村准教授は、永年にわたり、小児の外傷について研究を行っている。どのような外傷がどのような状況で惹起されているのか、外傷を予防するためには、どの場面でマウスガードが必要なのかといった詳細な説明があった。さらに、現在開発中の新材料を用いたマウスガードの開発についても言及した。

講演終了後、中村准教授より参加者一人ひとりに受講証書が手渡された。今回は開催地が北海道と遠方なこともあり、出席者は15人に留まったが、1期生の中野潤三郎先生、松田厚子先生および山川洋子先生から35期生の先生まで幅広い出席があった。

今回の第58回日本小児歯科学大会は、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催される。さらに多くの皆様に出席していただき、同門会員の特典ともいえる研修の機会を十分に活用していただきたい。

(小児歯科学講座 准教授 中村浩志)

2日間で360個以上の指の複製を作製

まつもと広域ものづくりフェアに学生が参加



子どもの指の型を採る前田さん(左)

7月13日(土)・14日(日)の両日に開催された「まつもと広域ものづくりフェア」に本学歯学部学生がボランティア参加した。同フェアは子どもたちにものづくりの面白さを伝えるという趣旨のもと、松本市や塩尻

市などの企業や教育機関に参加を募って開催されており、本学も「歯科材料で指の複製を作ってみよう」と題したブースを5年前から出展し続けている。参加したのは第1学年の大橋俊介君、齊藤直矢君、松川真也

君、第2学年の青木枝梨香さん、前田風華さん、水谷円香さん、第3学年の網野嵩之君、千野文子さん、町野惇君、三浦佑樹君、第4学年の沢田太二君の計11人。ブースでは本来歯の型を採る印象材を用いて子どもたちの指の型を採り、そこに石膏を流し込んで指の複製を作つてプレゼントする。実際に出来上がったものは指紋まで複製されており、歯科材料の精密さを感じることができる。学生たちはこの日のために印象材や石膏の扱いを事前に確認し、特に第1、2学年生は初めて印象材や石膏に触れる者も多く、戸惑いながらも練習を繰り返した。

当日は印象を説明する係、印象材を練る係、石膏を流す係に分かれて作業を行った。毎年好評の本学ブースは今年も大盛況で行列が途切れることはなく、2日間で360個以上の指の複製を作製した。

参加した学生は、印象材や石膏の扱いに上達したばかりか、

木曜夕方の開催で演題、参加者数が増加

第88回松本歯科大学学会(総会)

7月4日(木)、本館601教室にて第88回松本歯科大学学会(総会)を開催した。今回から開催日時を例会同様に木曜日の夕方としたところ、昨年までと比べて演題や参加者数が増加した。

一般演題は7演題で、基礎研究から臨床研究まで、多岐にわたる日ごろの研究成果が報告された。筆頭発表者もベテランの教授の先生方から若手教員、歯学部学生までさまざまであった。



表彰状を持つ三浦君(右)と山田研究科長

特に注目を集めたのは歯学部第3学年の三浦佑樹君と大和明日香さんで、原稿を見ることなく研究結果を発表し、質問にも適切に対応していた。指導されて

るということが繰り返されてきたことがある。最初はボランティア活動に積極的でない学生もこの2日間を終えると次の学年に引き継ごうという意識を持つようになって、実施担当者としてたくましさを感じている。

(総合歯科医学研究所 教授 増田裕次)

特別講演では、講師として大阪大学口腔生理学教室の加藤隆史教授をお招きし、「睡眠時ブラキシズムの謎を解くために」と題する講演が行われた。本学総合歯科医学研究所在籍時の研究から大阪大学に移籍後の現在に至るまで、多くの研究成果が報告された。睡眠時ブラキシズムに関するはまだ解明されていないことが多く残されており、今後のますますの研究の発展と活躍を期待したい。

今回の優秀発表賞には、三浦君が発した演題「溶血性細菌 Gemella の特性と歯周疾患との



中村准教授(前列中央)を囲んで

関連性」が選ばれ、山田一尋大学院研究科長から表彰状と金一封が授与された。

最後になりますが、会場係を担当していただいた歯科矯正学講座の先生方に感謝申し上げます。

(松本歯科大学学会幹事長 溝谷 徹)

MTBペタリング 随想記



元JFD一五輪日本代表 鈴木 雷太

国内ナンバー1を決める全日本選手権が終了した。自転車競技の特徴として、各国の選手権で優勝すると1年間国旗をあしらったデザインウェアを着なければならぬルールがある。これにより一斉に100人以上が走り出すレースでもひと目で誰がどの国で一番強いかが明確になる。それは名譽でもあり世界選手権と並んで最も重要な大会で、各カテゴリーで熱い戦いが繰り広げられた。

ジュニアからエリートまで各レースを観ているが、スタート前から落ち着かない選手、緊張する選手、開き直つて明るい選手と、それぞれの気持ちの準備を含めて普段とは違う様子も伺える。エリートカテゴリーはプレッシャーや修羅場をいくつも越えてきているのでかける言葉は少ないが、ジュニアとなるとそうはいかない。プレッシャーになりすぎていけないし、背中を押さなければいけない時もあり、表情と出てくる言葉を待ってから声をかける。勝負どころで力を出し切れる選手は強い選手がいる中でもほんのひと握りだ。その勝てる選手になるために、または勝ち続けるために、どういった声をかけていくかを考える。最近気付いたが勝てる選手たちは自分の意見を皆の前ではっきりと伝える。何のため

に走るのかおぼれずにはっきりしていれば、当然のことである。東京オリンピックまであと1年だが、2024年のパリを走るであろう彼らのレースを観て、どう育てて高みに上っていくかを具体的にイメージできたすばらしいレースでもあった。

病院だより vol.12

シリーズ診療部門紹介⑤

小児歯科

育成期口腔診療部門の小児歯科では子どもさんの発育期に関係する疾患、咬合育成、成長期の歯ならびの治療などを小児歯科の学識者が対応しています。

現在は5人の歯科医師と3人の臨床教授が診療を担当しています。担当者の7人は一般社団法人小児歯科学会に所属しています。

当科ではそれらの資格を有する歯科医師が、ヒーリングアートが施されたやさしい雰囲気の中で治療にあたっております。

特に大学病院としての特殊性を利用した全身麻酔下での歯科治療は、齲蝕が減少している昨今でも実施症例が増加しております。

われわれ小児歯科医は子どものみならず広く国民の期待にも添えるよう、これからの未来を担う子どもたちの健康も支えられるよう努力してまいります。

村田先生は、広島県で開業されている横山隆道先生(4期生)のもとで歯科衛生士として活躍された後、さらに知識を深めたいという思いから看護師免許を取得され、現在は子育てをしながら正看護師として病院に勤務されている。

本セミナーの前半では歯科臨床で実践されていた患者接遇や診療の流れ、メインテナンス時におけるチェック事項等について、実際に横山歯科医院で使用されている貴重なスライドを交えながら講義していただいた。

また後半は、歯科治療における患者教育の重要性や実際の取り入れ方について、位相差顕微鏡を用いた動機づけの実習を交えながら説明していただいた。

法小児歯科学会の専門医指導医の資格も有しています。専門医指導医は小児歯科医療のなごいっそうの発展と向上を図ることを目的とし、学会認定の小児歯科専門医で15年以上の経験を有していることが条件となっております。

今でも実施症例が増加しております。子どもさんに歯科治療のストレスを加えることなく治療が終了することから希望者も多く来院しています。

われわれ小児歯科医は子どものみならず広く国民の期待にも添えるよう、これからの未来を担う子どもたちの健康も支えられるよう努力してまいります。

村田先生は、広島県で開業されている横山隆道先生(4期生)のもとで歯科衛生士として活躍された後、さらに知識を深めたいという思いから看護師免許を取得され、現在は子育てをしながら正看護師として病院に勤務されている。

本セミナーの前半では歯科臨床で実践されていた患者接遇や診療の流れ、メインテナンス時におけるチェック事項等について、実際に横山歯科医院で使用されている貴重なスライドを交えながら講義していただいた。

また後半は、歯科治療における患者教育の重要性や実際の取り入れ方について、位相差顕微鏡を用いた動機づけの実習を交えながら説明していただいた。

全員が団結して昨年を上回る成績に期待が高まる。

第30回日本老年歯科医学会シンポジウム
歯科保存学講座・吉成伸夫教授が日本歯周病学会代表として講演



シンポジウムで講演した吉成教授

6月6日(木)から8日(土)にかけて、第30回日本老年歯科医学会が仙台国際センターで開催され、歯科保存学講座の吉成伸夫教授が日本歯周病学会代表として「介護予防としての高齢者への歯周治療の必要性と口腔健康管理」の中で位置づけ」と題して講演を行った。

今回は2年に1度の日本老年病学会が主催される年でもあり、老年医学系の7学会(日本老年医学会、日本老年社会科学院、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会、日本老年看護学会)の学術大会が合同開催され、日本老年歯科医学会には約1800人、第31回日本老年学会総会全体としては約9500人の参加者を集め、盛大に開催された。

日本老年歯科医学会では「食べる力を支える老年歯科医学」をメインテーマに、特別講演2題、教育講演2題、シンポジウム5題、指定シンポジウム2題、歯科衛生士シンポジウム1題が行われ、さらに日本老年学会を構成する7学会での合同シンポジウム14題中10題に日本老年歯科医学会から演者が選出され、他学会との交流を図り、歯と口腔の機能の重要性について認識を深めるように企画された。

求められていることから、従来使用してきた「口腔ケア」と「口腔健康管理」を峻別し、新しい時代にあった用語の使用と実践

6月21日(金)、22日(土)の両日、当院の歯科衛生士を対象にしたスキルアップセミナーが開催された。講師に歯科衛生士の村田あゆみ先生をお迎えし、2日間で12人の歯科衛生士が約3時間にわたるセミナーを受講した。

村田先生は、広島県で開業されている横山隆道先生(4期生)のもとで歯科衛生士として活躍された後、さらに知識を深めたいという思いから看護師免許を取得され、現在は子育てをしながら正看護師として病院に勤務されている。

つひとつに対して丁寧に回答していただいた。開業医でご経験を積まれた先生のご講演を通して、歯科衛生士としての診療への取り組み方、身につけるべき基礎力、そして仕事に対する情熱を持つことの大切さをあらためて実感できた2日間であった。

今年度は2年に1度の日本老年病学会が主催される年でもあり、老年医学系の7学会(日本老年医学会、日本老年社会科学院、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会、日本老年看護学会)の学術大会が合同開催され、日本老年歯科医学会には約1800人、第31回日本老年学会総会全体としては約9500人の参加者を集め、盛大に開催された。

求められていることから、従来使用してきた「口腔ケア」と「口腔健康管理」を峻別し、新しい時代にあった用語の使用と実践

6月21日(金)、22日(土)の両日、当院の歯科衛生士を対象にしたスキルアップセミナーが開催された。講師に歯科衛生士の村田あゆみ先生をお迎えし、2日間で12人の歯科衛生士が約3時間にわたるセミナーを受講した。

村田先生は、広島県で開業されている横山隆道先生(4期生)のもとで歯科衛生士として活躍された後、さらに知識を深めたいという思いから看護師免許を取得され、現在は子育てをしながら正看護師として病院に勤務されている。

つひとつに対して丁寧に回答していただいた。開業医でご経験を積まれた先生のご講演を通して、歯科衛生士としての診療への取り組み方、身につけるべき基礎力、そして仕事に対する情熱を持つことの大切さをあらためて実感できた2日間であった。

最後に、このような貴重な機会を設けてくださった矢ヶ崎雅理事長をはじめ、本セミナーの開催にご尽力くださった先生方に深く感謝申し上げます。



ポスター発表を行った筆者



実習で指導する村田先生(左)

最後に、このような貴重な機会を設けてくださった矢ヶ崎雅理事長をはじめ、本セミナーの開催にご尽力くださった先生方に深く感謝申し上げます。



植樹した記念樹の「御殿場桜」と松濤祭実行委員会のメンバーたち

歯科衛生士スキルアップセミナーを開催

村田先生は、広島県で開業されている横山隆道先生(4期生)のもとで歯科衛生士として活躍された後、さらに知識を深めたいという思いから看護師免許を取得され、現在は子育てをしながら正看護師として病院に勤務されている。

歯学体いよいよ開幕
上位成績に期待高まる

第51回全日本歯科学学生総会体育大会夏期部門は、福岡歯科大学の事務主管により7月30日(火)から8月10日(土)までの日程で開催される。

第51回全日本歯科学学生総会体育大会夏期部門日程 (本学が出場する部門のみ掲載)

Table with columns for Department Name, Date, and Venue. Rows include Hardball, Softball, Table Tennis, Soccer, Golf, Badminton, Basketball, Judo, Archery, Judo, and Swimming.

(開会式: 7月30日(火)、閉会式: 8月10日(土)) ●: 試合日、▲: 練習日、予備日等

松濤祭実行委員会
御殿場桜を植樹

松濤祭実行委員会は4月26日(金)、第34回大学祭の開催を記念して、「御殿場桜」を中庭の東屋の東側に植樹した。

新教授紹介

(2019年7月1日付就任)

公衆衛生学講座

教授 山賀 孝之



このたび公衆衛生学講座教授を拝命いたしました。山賀孝之と申します。学内および校友の皆様はこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、新潟大学歯学部を卒業し、同大学の予防歯科学講座の大学院を経て教員として従事してまいりました。研究テーマは主

に歯科疾患の疫学研究で、教室の基幹研究でもあった長期コホート調査「新潟高齢者スタディ」に一貫して関わってきました。

山賀 孝之教授 略歴

1997年 3月	新潟大学歯学部	卒業
2001年 3月	新潟大学大学院 (予防歯科学)	修士
2001年 4月	新潟大学歯学部附属病院 (予防歯科)	医師
2002年 2月	新潟大学附属病院 (予防歯科)	助手
2007年 4月	新潟大学歯学部総合病院 (予防歯科)	助教授
2012年 4月	新潟大学歯学部総合病院 (予防歯科)	講師
2019年 7月	松本歯科大学歯学部公衆衛生学講座	教授

また、(公衆)衛生学は、多くの私立大学や一部の国立大学では基礎講座となつていますが、予防歯科は臨床講座で独立した診療科も持っています。そこでは、わが国初の口臭外来の開設に携わり、診療とともに簡易型ガスケットグラブファイヤプロテアーゼタブレットの開発・臨床試験にも関わりました。

また、専門である疫学研究は、研究モデルを一朝一夕に構築することは困難ですが、将来的には長寿県として高いこの長野県において、口腔領域から長寿に関わる要因分析ができればと考えています。

浅学・若輩の身ではありますが、皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

「骨リモデリング制御機構の新たな側面」

5月17日(金)、米国・ミネソタ大学歯学部生命材料科学科発生遺伝学研究室の三品裕司教授をお迎えし、大学院セミナーが開催された。

成と骨吸収のカップリングは重要である。骨形成因子BMPは骨芽細胞および破骨細胞の分化促進と機能亢進に重要であることが示されてきた。三品教授らは、遺伝子欠損モデルマウスを用いた骨リモデリングの新たな側面を明らかにした。

今回、三品教授からは、破骨細胞は、その分化の過程でトネリングナノチューブ(TNT)を用いた骨芽細胞とのBMPシグナルが破骨細胞分化に重要であることを示した。また、BMPシグナルを破骨細胞特異的に遮断したところ、破骨細胞の分化が低減したが、これに加えて骨芽細胞分化が促進されるという結果が得られた。

今回、破骨細胞は分化の進んだ骨芽細胞とTNTを介して相互作用を行い、骨芽細胞に細胞死を惹起するという新しい知見を得た。この実験結果は、骨リモデリングが進行する際に破骨細胞が骨吸収を行っている場所では骨形成が抑えられる。そして、骨吸収が終了すると、破骨細胞からの何らかの分泌因子に

また、専門である疫学研究は、研究モデルを一朝一夕に構築することは困難ですが、将来的には長寿県として高いこの長野県において、口腔領域から長寿に関わる要因分析ができればと考えています。

浅学・若輩の身ではありますが、皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

より骨芽細胞の分化が亢進し骨形成が始まることを示している。骨カップリング機構の解明を目指す研究のますますの発展が期待される。

影山 徹 (大学院歯学部 歯学部長 准教授) 世界舌側矯正歯科学会専門医

Alumni News

松本歯科大学校友会

第40回校友会総会 実習館・体育館耐震化工事に対し 8000万円の助成を決定



全会一致で再任された矢ヶ崎雅会長(左)

6月16日(日)、第40回松本歯科大学校友会総会が本学キャンパスイン101教室において開催された。矢ヶ崎雅会長(1期生)をはじめ本部役員および台湾支部を含む32支部の理事・評議員、総勢88人が参集した。

昨年度の事業報告と収支決算報告、今年度の事業計画と収支予算が承認され、歯科医師国家試験合格を目指した在学生の教育支援事業の推進継続が確認された。また、役員改選が行われ、全会一致で矢ヶ崎雅会長が再任された。

さらに、校友会実習館・体育館耐震化工事助成委員会(宇田川信之委員長(10期生)、山田幸治副委員長(1期生))からの答申が行われ、実習館・体育館

の耐震化工事に対して校友会からの助成の根拠と説明がなされた。耐震化工事は、学生のみならず職員や大病院来院患者の生命を守り、地域住民の避難施設としての重要な役割を担うことに鑑み、校友会から大学への8000万円の助成が決定された。また、校友会への会員からの寄附について、今後周知活動していくことが決まった。

校友会前日には、各支部主催の在学学生を囲む催され、学生との懇談が行われた。今回、新支部長として、島村修先生(群馬県11期生)、門脇敬二先生(広島県6期生)、宮澤英二先生(滋賀県7期生)、宮脇守男先生(香川県8期生)、樋口哲也先生(山梨県6期生)、鈴木康次先生(愛知県3期生)が参加された。

今後さらなる校友会活動の発展が期待される。

群馬県支部

総会および学術講演会を開催 令和元年に新執行部が始動

七夕祭りの行われた7月6日(土)、群馬県支部総会が前橋市のホテルラシーネ新前橋にて開催されました。

食をサポートするための熱いアイデアをアイディアがなされました。総会では、参議院選で、ひがなつみ先生を群馬県支部一同で応援していくこととなりました。

また、相談役の蟻川篤則先生(4期生)より日学歯就学時健康診断マニュアルの改訂・う蝕多発傾向者についてご説明があ



群馬県支部会員の先生方

今年度、芝規良先生(32期生・吾妻郡)が入会されました。新執行部は支部長・島村修(11期生)、副支部長・小林弘明(19期生)、専務理事・増田康展(11期生)、常務理事・牧井寛方(19期生)、校友会の活性化を図っていく所存であります。

中島先生は地域の健康寿命延伸のために行ってきたことや、

10期生・中島潤子先生のインタビュー「歯談・食談」 歯科雑誌「デンタリズム」に掲載

歯科業界のコミュニケーションマガジン「Dentalism」(デンタリズム)に、松本市四賀地区で開業している中島潤子先生(10期生)のインタビューが掲載され、高齢化率が47%を超える地元での診療と今後の展望について語っている。



掲載誌を持つ中島先生

自身がアメリカの大学院に在学中で多くの学びを得たことなどを幅広く話した。インタビューは4月に本学フレンドレ스토랑「雷鳥」にて行われ、信州産の食材をふんだんに使ったコース料理や、大学オリジナルのMDUワインなどに舌鼓を打ちながら対談の様子に掲載された。また、渡辺孝貴シェフや料理の数々も写真つきで紹介されている。なお、歯談・食談が大学内で行われるのは今回が初めて。

デンタリズムは同誌ウェブサイトで閲覧することができる。 <http://www.dentalism.jp/>

人事異動

〔退職〕 6月30日付 芋田 春佳 (臨床検査室視能訓練士) 郷津 美佳 (看護部看護師) 橋本 桂子 (看護部看護師)

〔採用〕 7月1日付 山賀 孝之 (教授(歯学部公衆衛生学講座)) 百瀬 寛子 (看護部看護師(契約職員))

専門医

2019年7月5日 影山 徹 (大学院歯学部 歯学部長 准教授) 世界舌側矯正歯科学会専門医

8月行事予定

- 7月30日(火)・10日(土) 第1回杏茶園科学系学生委員会夏期講習(1日(木)・16日(金)) 夏季休業(大学院)
- 4日(日) 一日体験入学(歯学部)
- 19日(月) 後期授業開始(第4学年)
- 25日(日) 一日体験入学(歯学部)
- 27日(火)・9月3日(火) 定期試験(第1・3学年)
- 28日(水) 大学院発表会

日本	21,755.06円
米国	27,221.35ドル
◆金地金店頭価格(消費税込み)	
売り(1グラム)	5,420円
買い(1グラム)	5,335円
◆白金地金店頭価格(消費税込み)	
売り(1グラム)	3,419円
買い(1グラム)	3,290円